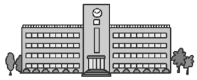


スクール便り



農業土木・環境土木科の 71 年

— 山口県立田布施農工高等学校 環境土木科 —

1. 学校紹介

本校の前身である田布施農業高等学校は、昭和 10 年に山口県立田布施農業学校として開校し、平成 17 年には創立 70 周年記念式が挙行された。また、同じく本校の前身である田布施工業高等学校は、昭和 37 年に山口県立下松工業高等学校田布施分校として開校し、昭和 59 年に田布施工業高等学校となり、平成 16 年に創立 20 周年記念式が挙行された。そして、平成 22 年に両校の再編統合により、山口県立田布施農工高等学校が開校した。農業 3 学科（生物生産科、食品科学科、環境土木科）と工業 1 学科（機械制御科）の計 4 学科で、平成 27 年 9 月 1 日現在の全校生徒数は 455 名、男女の構成比は約 6 対 4 である。卒業生は、県内外あらゆる分野において目覚ましい活躍をしている。部活動では、レスリング部やアーチェリー部、陸上競技部、メカトロ研究部が全国大会に出場するなど、体育系、文化系ともに活躍している。

2. 農業土木科から環境土木科へ

本科は昭和 19 年に食料増産のため、開墾や干拓、耕地整理などに携わる技術者養成を目的に農業土木科として設置された。その後、平成 11 年に環境土木科に学科改編され、農業土木の指導は本年で 71 年目を迎えた。農業土木や土木の技術者、国家公務員、山口県庁、近隣の市町村役場へ多くの卒業生を送り出し、各地で農村基盤、社会基盤の整備などに携わり活躍をしている。現在は 2 年生からコース制を導入している。土木計画コースでは、土木の専門的な知識と技術の習得を目指して、農業土木施工と農業土木設計、水循環について学習している。造園緑化コースでは、造園の知識と技術の習得を目指して、造園計画と造園技術を学習している。共通科目として、学年ごとに環境について学習できる科目を設定している。

3. 履修する専門科目

() は単位数、【 】 は選択科目

1 年：農業と環境 (2)、測量 (2)

農業情報処理 (2)、総合実習 (2)

2 年：共通科目：測量 (2)、課題研究 (2)

農業情報処理 (2)

総合実習 (2)

【CAD 製図 (2)】

土木計画コース：農業土木設計 (2)

農業土木施工 (2)

造園緑化コース：造園技術 (2)

造園計画 (2)

3 年：共通科目：課題研究 (2)

総合実習 (2)

【環境緑化 (2)】

【社会基盤工学 (2)】

土木計画コース：農業土木設計 (2)

農業土木施工 (2)

水循環 (2)

造園緑化コース：造園技術 (2)

造園計画 (2)

4. 受験する資格

1 年：計算技術検定 3 級

(6 月全員受検)

小型車両系建設機械特別教育

(8 月全員受講)

2 年：トレース技能検定 3 級 (10 月造園緑化コース
全員受験)

3 年：測量士補、土木施工管理 2 級

(土木計画コース全員受験)

造園技能検定 3 級

トレース技能検定 2 級

(造園緑化コース全員受験)

5. 環境学習

平成 11 年度に農業土木科から現在の環境土木科に科名変更し、それ以来、環境に配慮した地域作りを意識した技術者の育成も教育目標の一つとした。平成 21 年度に文部科学省より指定を受け、環境のための地球規模の学習および観測プログラム (GLOBE) 推進事業に参加した。この参加をきっかけに実践的な環境学習 (大気調査、水質調査、水辺の生き物調査、エココミュニケーションなど) に取り組み始め、現在の環境学習のベースとしている。

(1) 1 年次「環境科学基礎」で地球環境問題 (地

球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化など）および日本の環境問題（都市化の問題、外来種の進入、エネルギー問題など）に着目し、農業生産と結びつけながら学習している。

(2) 2年次「課題研究」で環境に関する専門知識の深化を目的に、①環境の歴史、②環境関連法規、③自然環境、④環境と化学物質、⑤地球環境、⑥生活環境、⑦資源環境等、の各環境分野について学習している。

(3) 3年次「環境緑化」で生態系とビオトープ保全、エコロード、多自然型河川、生態系に配慮した法面緑化など、生態系に配慮した工事事例や工法を学習している。

「課題研究」では、平成22年度より地域の小学校と連携し、水辺の生き物調査を通して環境学習に取り組んでいる。その取り組みでは、水辺の生き物調査や水質調査、エココミュニケーションなどを通して、地域の自然に愛着を持ち、身近な環境に興味・関心を持てるように交流学习を実施しており、現在も継続中である。



写真-1 水辺の生き物調査

6. 生徒の諸活動

現場見学会やインターンシップ、外部講師による講話など、各専門機関と連携を取りながら、体験的な活動を通じて、専門分野の学習に対する意欲の向上を図るとともに、専門分野の社会的な役割も認識させている。

- (1) 土木建設現場見学 (1年生)
- (2) 小型車両系建設機械特別教育の受講 (1年生全員)
- (3) インターンシップ (2年生)
- (4) 出前講座 (2年生) (一財)山口県建設技術センターの協力により、各種公共工事の必要性、重要性について講話をいただき、職業理解を深めている。

(5) 山口県建設業出張セミナー (2年生) 山口県土木建築部の協力により、経験豊かな土木・建設技術



写真-2 小型車両系建設機械特別教育受講

者からその経験を伺い、長年にわたり建設業で働いてきた経験を、生徒が聞くことで土木・建設業への職業理解を深めている。

(6) 講師招聘事業 (3年生) 毎年、広島工業大学専門学校から講師をお招きし、測量士補の講義や測量実技演習などを開講し、技術の習得に取り組んでいる。

(7) 公務員課外 公務員希望者に放課後や休日、夏季休業中に課外を実施している。

7. 進路状況

関連産業への就職・進学が決定した卒業生の数を下記に示している。今後も専門に関する興味・関心を高める取り組みを続けていきたい。

<平成25年度>

就職 土木建設業 (8名)

公務員土木職 (1名)

進学 関連学科 (0名)

<平成26年度>

就職 土木建設業 (9名)

公務員土木職 (0名)

進学 関連学科 (2名)

8. おわりに

本校本科に入学した生徒は、初めて学ぶ環境土木科の専門科目を3年間掛けて学習し、その専門性を生かせる就職先、あるいは、その専門性をさらに深く学ぶことのできる進学先へと進んでいった。土木建設業界の低迷が続く、他分野の進路を選択せざるを得ない時期もあったが、近年、若手土木技術者の需要は高まってきている。地元建設業はもとより県外でもニーズに対応できる土木技術者の育成を目指し、体験的な学習である測量実習やインターンシップ、現場見学、出前講座、土木関係の資格取得などを通して、生徒に自信を持たせ、将来、土木建設業で活躍したいと思う人材を育てていきたい。

(山口県立田布施農工高等学校環境土木科
教諭 山崎盛敏)